

マーケットレポート

FOMCは2会合連続で利下げを決定

～12月の追加利下げの織り込みはけん制～

◆市場予想通り、0.25%の利下げ

FRB（米連邦準備理事会）は10月28～29日にFOMC（米連邦公開市場委員会）を開催し、市場予想通り、賛成多数で0.25%の利下げを決定しました。2会合連続の利下げで、政策金利であるFF金利（フェデラル・ファンド金利）は、3.75～4.00%となりました。

今回の決定にあたっては、9月に就任したミラン理事とカンザスシティ連銀のシュミッド総裁が反対票を投じました。ミラン理事は、前回に続き0.5%の利下げを主張した一方、シュミッド総裁は据え置きを主張しました。参加者間で、見解に大きな隔たりがみられます。

加えて、今回の会合では、バランスシートの圧縮を12月1日で終了することも決定しました。

◆「12月の追加利下げは既定路線ではない」

パウエルFRB議長は会合後の記者会見で、利下げの背景として、ここ数カ月で雇用の下振れリスクが高まったことを挙げました。移民の減少などにより労働力が減少している一方で、明確に労働需要は弱まっている、としました。

他方、物価については、関税により足元は押し上げられているものの、持続的な上昇圧力にはならず、比較的短期間の影響に留まることが基本シナリオとの見方を示しました。

さらに、記者会見では、12月の追加利下げは既定路線ではないことを強調しました。

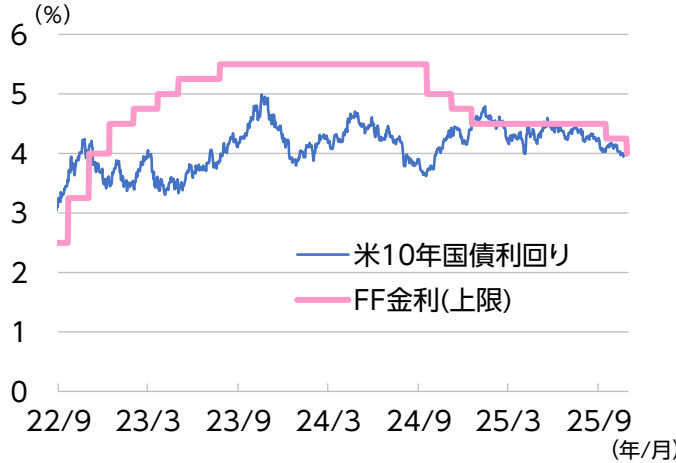
◆市場の反応、今後のポイント

29日の米国株式市場では、NYダウは前日から下落しました。為替市場では米ドルが買われました。記者会見でのパウエル議長の発言を受け、12月の利下げ観測が後退したことが影響しました。米ドル/円は、一時1米ドル＝153円台まで円安・ドル高が進みました。また、債券市場における12月利下げの織り込みは、前日の9割程度から7割程度まで低下しました。

今回の会合では、景気は堅調な個人消費を背景に緩やかに拡大している、との判断でした。次回以降の政策判断においては、こうした個人消費の動向も重要となります。これから本格化するクリスマス商戦にも注意が必要です。

米10年国債利回りとFF金利誘導目標（上限）

（2022年9月1日～2025年10月29日、日次）

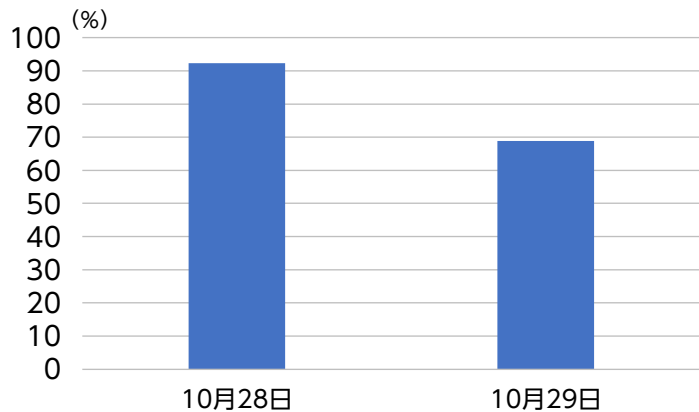


海外金融市場の動向

	10月29日 終値	前日比	
		変化幅	騰落率 (%)
NYダウ (米)	47,632.00	▲74.37	▲ 0.16
S&P500 (米)	6,890.59	▲ 0.30	▲ 0.00
ナスダック総合 (米)	23,958.47	130.98	0.55
FTSE100 (英)	9,756.14	59.40	0.61
DAX (ドイツ)	24,124.21	▲ 154.42	▲ 0.64
米国10年国債利回り	4.08%	0.10	-
米ドル/円 (円) ※	152.73	0.62	0.41
WTI原油先物	60.48	0.33	0.55

※米国市場の終値

市場における12月FOMCの利下げ織り込み



（信頼できると判断したデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成）

【投資に関する留意事項】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債など値動きのある有価証券等を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。したがってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

投資信託にご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

1.購入時に直接ご負担いただく費用 (1)購入時手数料 上限 3.85%(税込) (2)信託財産留保額 上限 0.1%

2.換金時に直接ご負担いただく費用 (1)信託財産留保額 上限 0.5%

3.保有期間中に間接的にご負担いただく費用 (1)信託報酬 上限年率 2.09%(税込、概算)

※ファンド・オブ・ファンズ形式の場合は、一部を除き、投資信託が投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。

※一部の投資信託および投資信託証券には運用実績等に基づき計算される成功報酬額が別途かかる場合があります。この場合、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合がありますが、成功報酬額は運用実績等により変動するため、上限額等を事前に表示することができません。

4.その他費用 (1)上記以外に投資信託の保有期間等に応じてご負担いただく費用(*)があります。これらの費用は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等を事前に表示することができません。

(*)監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用、投資信託証券の解約に伴う信託財産留保額、および投資信託が実質的に投資対象とする仕組み債券の価格に反映される費用等

上記の費用の合計額については、お客様が投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に表示することができません。

詳細は投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友トラスト・アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率(作成日現在)を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧ください。

◆設定・運用は



三井住友トラスト・アセットマネジメント

商 号 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加 入 協 会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。